てんどう 政治

県政報告シリーズ vol.41

山形県政 天童の目線

●山形県議会議員
矢吹 栄修（やぶき・えいしゅう）

やぶしゅう通信

2022年 夏号

地位か名誉か金か。いや、大事なのは目的だ。

五代友厚

明治期の大阪経済の立役者、五代友厚の表題の言葉は、生きる指針を示してくれています。とくに我々議員は、地位や名誉や金のためではなく、成し遂げたいことのために議員になったのであり、またそうあるべきだと思っています。天童や山形がこうあるべき、というしっかりとした目標、将来ビジョンを持ちながら今後も邁進していきます。

今回は、そんな将来ビジョンをもとに6月定例会にて一般質問をしましたので、その概要をご報告します。

1 新スタジアム建設に向けた考え

６月定例会にて一般質問

モンテ新スタジアム建設が天童に決まり、大変嬉しいです。誘致活動に一丸となって下さった市民の皆さんに感謝申し上げます。新たなスタジアムは全天候型の365日イベントなどで使える非常に夢のあるものです。同時に、スタジアム単独ではなく、周辺のスポーツ施設・商業施設・観光施設を開発して、「一大ボールパーク」にしてこそ真の力を発揮するでしょう。

しかし、開発する際の都市計画法・農地法などのハードル、所有権の問題、維持費修繕費の準備、駐車場の整備、なにより建設予算の支援、そうした課題が今後想定されます。2025年完成を目指す以上、時間はあるようでありません。そして、県有地に立つスタジアム建設には県の存在は非常に大きい。「山形の宝」を創出するべく、知事に絶大な協力と英断を要請しました。

2 デジタル地域通貨と地方独自のキャッシュレス決済システム

地域通貨とは地方独自の通貨で、山形の通貨を「チェリー」としたとして、１円＝1チェリーと設定します。観光客が1万円をチェリーに交換した際などに1万2千チェリーとなり、お土産を買う際などにお得、といったイメージのものです。紙媒体もありますが、スマホにアプリをダウンロードして使う、デジタル地域通貨が今は主流です。これを導入することで、例えばコロナ禍でのプレミアム付き商品券をこのデジタル地域通貨で発行すれば、莫大な印刷費や事務作業量、店側の負担、購入時の混乱や不公平感といった紙媒体での課題を大きく解決できます。

また、地方ではキャッシュレス決済がなかなか進みませんが、大きな原因として売り上げの数％の手数料があります。売り上げが上がれば上がるほど中央の大企業に地方のお金が流れることになります。これを地方独自にシステムを導入し、売り上げの数％ではなく定額の手数料にすれば、地方の企業やお店により多くの儲けが残ることになります。

こうしたシステムは市町村よりも県という広範囲で導入した方が効果が高いため、県が積極的に先導して導入を進めるよう提言しました。

3 健康医療分野のDX（デジタル化）

デジタル化の恩恵を最も感じやすいのは健康医療分野です。納得した上で自分のデータを提供した人には、予防医療や健康指導のサービスを受けられたり、スマホで日々の生活習慣を記録したり、健康的な生活を送っている人は生命保険の掛け金が安くなったり、といった具合です。

ただ、まだまだ医療機関も行政もアナログです。病院と薬局がもっと患者さんのデータをデジタルに把握して治療に役立てるべきですし、行政も健康事業を行う際に紙媒体から脱却しなければなりません。そのためにも県民の健康データを管理する主体とルール作りが必要です。最も今後進むであろう健康医療分野のDXを県が主導し、健康やまがたにつなげるよう提言しました。

4 外国人材の受け入れについて

人材不足の山形県では、アフターコロナにおいて必ず外国人材を必要とします。しかし、今は各国の送り出し機関と、県内の受け入れ機関、外国人材を必要とする企業や介護事業者、留学生を受け入れている大学などがバラバラに動いている状況です。

こうしたマッチングをスムーズにし、日本語教育や生活相談といった支援を充実させ、不法就労やブラック企業を監視するために、茨城県で先行している「外国人材支援センター」のような機関を創設することを提言しました。

5 果樹王国発信拠点について

２月定例会に「フルーツ発信博物館」のような施設を25億もの予算をかけて建設する事業が提出され、議会の理解が得られず県政史上初めて予算の取り下げがありました。前回の通信で詳しく報告しましたが、果樹の発信をするのに「25億の箱物」はやはり適さないでしょう。

ただ、いっそのこと老朽化が叫ばれている県立博物館を新設し、その一角に果樹の歴史や技術を展示し、体験コーナーを設けることを提言しました。県が運用する観光施設では民業を圧迫してしまいますが、博物館という文化施設ならば儲けを気にする必要はありません。むしろ、山形の文化を代表するものの一つとして果樹を展示することで、特徴ある博物館となることでしょう。

予算特別委員長として委員会に臨む

6 住宅の循環について

山形県は三世代同居率が高く、すでにある家に住んだ方が家賃もかからず余裕がでます。しかし、親の家があっても独自に家を建てる風潮は止まらず、若い世代はまだ給料も安いですから、中心部の狭く安い家を購入する傾向にあります。市街化調整区域では広い敷地の家しか建てられませんから、広い家で子育てしたい世代が市街の狭い家に住み、逆に郊外では老夫婦が広い家を持て余し、歩いて買い物にも行けない、という事態を招いています。

欧米ではライフステージに応じて家を住み替えます。自由に動ける子育て世代は郊外の広い家に住み、子供が独立すれば便利な中心部にアパートを借りる、といった風に日本も変わっていかなければ、空き家の問題は解決しないでしょう。こうした問題意識のもと、住宅の循環を促進するような施策を提言しました。

矢吹えいしゅう Eishu Yabuki Profile プロフィール

◇昭和49年　天童市小路に生まれる
地元の南部小学校、天童第一中学校卒業
◇平成５年　山形東高校卒業
◇平成９年　東北大学文学部卒業
◇平成11年　立正大学大学院修士課程修了
◇同　年　日蓮宗信行道場にて修行を終え、僧侶の資格を得る
◇平成12年　百日の大荒行を満行
◇現　在　天童妙法寺副住職
◆趣　味　読書と執筆、スキー、野球、バスケ等のスポーツ
◆信　条　代案なき批判をしない
理想の灯を照らして、現実の暗い道をいく

天童、躍動！

山形県議会議員 矢吹えいしゅう事務所
ご意見をお寄せください。皆様の声をお届けします。
●政治に関すること ●日々の生活に関すること ●山形県政、天童市政に対する疑問・質問など
〒994-0049 山形県天童市南町2-1-29 メープル2号
TEL&FAX 023(653)1730 ※電話・ファクス番号が変更になりました。
公式ホームページリニューアルしました！
矢吹えいしゅう公式ホームページ http://yabushu.jp